

文化財めぐり

外海地区の文化財

発行日 平成17年7月3日
発行所 長崎市魚の町5-1
長崎市教育委員会
生涯学習部文化財課
095-829-1193



出津周辺の風景 右手奥に出津教会、その下方に旧出津救助院が見える

日時 平成17年7月3日(日) 9:00 ~ 13:00
コース 枯松神社 ~ 外海歴史民俗資料館 ~ 旧出津救助院 ~
出津教会
主催 長崎市教育委員会
講師 山崎政行(長崎市文化財審議会委員)
中村和正(外海教育センター主査)

ド・ロ神父と外海地区

外海地方は、キリシタン大名大村純忠以来多くの信徒が居住し、古くよりキリスト教と関わりが深く、信仰が盛んな地域でした。徳川幕府による禁教令・弾圧以後も潜伏し信仰を守り続け、近代にいたりましたが、長年にわたる政治的、社会的迫害・差別と、耕地に恵まれない土地での生活は厳しいものでありました。

フランス人宣教師マルコ・マリ・ド・ロ神父は、1840年3月26日、北フランス、カルバドス県バイユ市近郊のヴォスロール村の貴族の家に生まれ、1865年に叙階、パリ外国宣教会に所属しました。1868年(慶応4年)長崎に派遣され、1879年(明治12)司牧の任を受け、主任司祭として外海地区に赴任しました。外海に赴任したド・ロ神父は人々の窮状を知り、授産場の設置をはじめとして、1911年(明治44)病気療養のため長崎へ移るまでの30年余りにわたって、外海地区の福祉活動・慈善事業に尽力しました。神父の活動は、宗教、教育、印刷、医療、土木、建築、開墾など多岐にわたっており、その知識の豊かさ、能力の高さがうかがえます。神父は1915年(大正3)に亡くなりましたが、その足跡は、今日もなお多くの文化遺産として大切に守られています。



マカロニ工場と「ド・ロ壁」技法の石積塀

旧出津救助院(国指定重要文化財)

ド・ロ神父が外海地区の人々の窮状を救うために、私財を投じて創設した福祉施設です。神

父は赴任後すぐに救助院の建設を計画し、神父の設計・指導により、授産場を1883(明治16)に、鰯網工場を1885年(明治18)に建設しました。救助院では、教育活動や製粉、パン・マカロニ・ソーメン製法、機織、搾油などの技術指導が行われました。使用された機械や器具はド・ロ神父がヨーロッパから購入していました。

ド・ロ神父の献身的な社会福祉活動の遺産として、昭和42年には「ド・ロ神父遺跡」(救助院跡・鰯網工場跡)として長崎県史跡の指定を受けました。さらに、平成15年、先の二つの建物とマカロニ工場、敷地内の塀、石垣、石段などを含めて「旧出津救助院」として国の重要文化財に指定されました。フランス人宣教師の指導により建設された明治初期の授産・福祉施設として他に例を見ない貴重な遺構であり、近代のわが国における西欧建築技術受容の一端を知るうえで貴重な文化財として高く評価されています。

【授産場】

救助院施設の中心的建物で、木造および石造二階建。外廻りは「ド・ロ壁」と呼ばれる、目地に赤土を混ぜた漆喰を使用した石積壁が用いられています。1階は仕切りを設けない土間の広い部屋で作業場となっており、パン、マカロニ、ソーメン、醤油製造や染色工場として使用されました。土間床の中央には長く掘り込んだ地下貯蔵庫があり、北西隅にはパン生地などを発酵させるためのムロが、また、建物東側にはパン焼窯跡が付属しています。2階は、修道女の生活場所、礼拝堂であり、織物工場としても使用されました。

【マカロニ工場】

煉瓦造、切妻造、棧瓦葺の建物で、マカロニ製造を目的として建設されたと考えられます。内外とも漆喰塗り、内部は東西2部屋に仕切り、西側の部屋には竈が設置されています。また、隣接して、「ド・ロ壁」の技法による石積塀があります。

【鰯網工場】

木骨煉瓦造、平屋建の建物で、婦女子の副業として、当時盛んだった鰯網の工場として建設



鱚網工場（ド・ロ神父記念館）

されましたが、建設の翌年には工場は廃止され、保育施設として利用されるようになりました。内部は間仕切りを設けておらず、床下には長く掘り込んだ地下貯蔵庫があります。ド・ロ神父が亡くなった後は、保育事業も中止されたと考えられますが、1930（昭和5）に黒崎高等小学校の仮校舎として使用されたのち、1935（昭和10）に保育事業が再開されました。昭和43年ド・ロ神父記念館として開館し、ド・ロ神父に関する資料が多数展示されています。中には、県指定有形文化財の「出津のプラケット「無原罪の聖母」」や「木版画筆彩「煉獄の靈魂の救い」」なども公開されています。建物は、平成11年度から13年度にかけて半解体修理が実施され、明治中期頃の姿に復旧整備されました。授産場もそうですが、建物に輸入金具が多用されているのも特徴のひとつです。

【出津のプラケット「無原罪の聖母」】

青銅製で方形の大型メダルで、中央に無原罪の聖母、四隅に天使の顔、周囲にはフランシスコ会の帯の紐が周囲に配されています。ド・ロ神父の遺品の中にあつたもので、外海地方の信徒が潜伏時代に伝承したものと思われる。スペイン製で16世紀～17世紀に伝来したものと考えられます。縦11cm、横7cm。

【木版画筆彩「煉獄の靈魂の救い」】

1877年（明治10）頃、ド・ロ神父が日本人絵師に布教用に作らせた10種の木版画のひとつで、額装されています。版木10種は大浦天

主堂に保存されています。宗教版画として長崎の版画史の中で特異な位置を占めるものです。

【キリシタン暦】（市指定有形文化財）

石版印刷によるもので、1868年（慶応4）に印刷された暦です。「天主降世千八百六十八年歳次戊辰瞻礼記」と「写本教会ごよみ」の2点が指定されています。暦は信徒の日常の信仰において必要なものでした。

【木版画】（市指定有形文化財）

1869年（明治2）南京で作製されたもので、ド・ロ神父が明治の初めに、キリシタン弾圧の続く日本を避けて、上海や香港で宗教版画を印刷していた頃に手に入れたものといわれます。ド・ロ神父は持ち帰った木版画を手本にして、日本人向きの木版画を作製しました。

出津教会（県指定有形文化財）



出津教会

ド・ロ神父の設計・施工による教会堂で、1882年（明治15）竣工。1891年（明治24）に祭壇部の塔などを増築、1909年（明治42）

には玄関部を増築し、ほぼ現在の姿となりました。1909年増築の鐘楼の鐘は、神父がフランスから取り寄せたものです。外壁は煉瓦造、玄関は石造、内部は木造で、三廊式漆喰塗り平天井となっています。低く堅牢な造りは、海岸に面した強風を受けやすい立地条件を配慮したものといわれています。昭和47年、県の有形文化財に指定されました。

枯松神社(市指定史跡)

1614年(慶長19)、幕府より禁教令が出され、以降キリシタンの取り締まりはいっそう厳しさを増しましたが、その中であって、外海地



枯松神社

方の多くの信徒たちは潜伏して信仰を保ち続けました。黒崎地方の潜伏キリシタンたちは、枯松の山頂にひそかに集まってオラショを伝承してきました。明治時代になって、この地に神社を建立し、日本人指導者バスチャンの師であるサン・ジワンをまつりました。キリシタンをまつった神社は全国的に珍しく、枯松神社のほかには、市内湊神社桑姫大明神、伊豆大島のおたあね大明神が知られています。また、神社周辺には、結晶片岩板石を伏せ置くキリシタン墓が数多く残っています。

なお、バスチャンは、禁教令により外海地方の神父が全て追放された後、信徒たちを指導したといわれる人物で、外海地方で尊敬を集めており、隠れ家のひとつと伝承されているバスチャン屋敷跡も市の文化財に指定されています。

外海歴史民俗資料館

外海地区の歴史、文化、民俗などを、豊富な資料展示により紹介している資料館です。

1階 民俗資料 生活と道具

農具・漁具
家内作業の道具
農家とくらし
明治時代の鍛冶屋
池島炭坑の資料

2階 歴史・考古資料 古代から現代まで

宗教資料 神道/仏教/キリスト教
姉妹都市資料
出津遺跡出土品

【メダイ「サルバトル・ムンディ(世の救い主)」】

(市指定有形文化財)

キリスト教の伝来により、外海地方にも宣教師等によって、さまざまなキリシタン関係の聖具などが持ち込まれました。メダイは3個あり、銅製で、片面にはキリスト像とその周囲に「サルバトル・ムンディ(世の救い主)、もう一方の面には聖母マリア像と「マテルディヴィネ・グラチェ(聖寵みちてる母)」のラテン語の文字が配されています。ルネサンス期の美術品であり、宣教師よりもたらされたものです。



メダイ「サルバトル・ムンディ(世の救い主)」